



最終報告会

子どもを守る 防災ネットワーク事業



平成25年2月9日

鈴木 里枝子

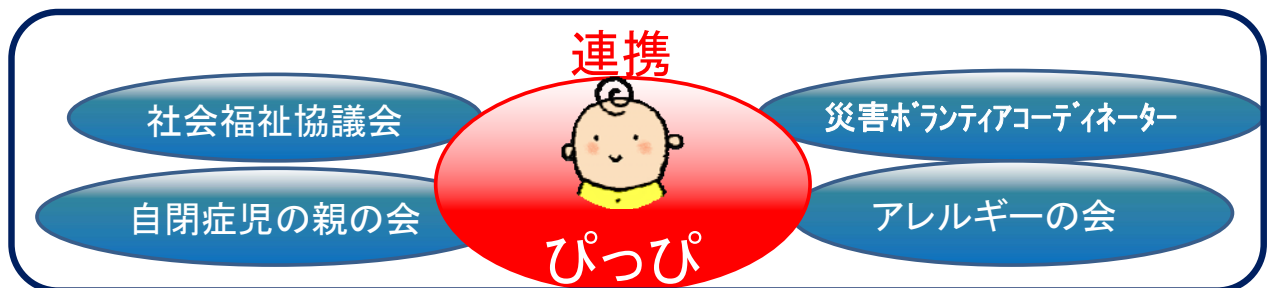
NPO法人はままつ子育てネットワークぴっぴ

2013/2/9

これまでのぴっぴの防災講座

■2006年

子どもや女性の視点に注目した防災講座を開始



「子どもを守る防災ワークブック」作成

東京・新潟～長崎にて、防災講座を開催

■2011年3月11日 東日本大震災

被災地にヒアリング「ぴっぴ家族の減災BOOK」作成

■2012年

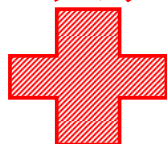
防災紙芝居「その時、きみはどうする？」を作成



2013/2/9

今回のぴっぴの防災講座の**目的**

- 参加者が**自主的・積極的**に取り組める講座
- 女性や子どもの視点**を防災に取り入れる
- 地域防災に女性が入りこむ**



- 『防災プレ教育』として、幼児でも、子どもは守るだけの存在ではなく、子どもと共に**積極的に防災を学ぶ**というプログラムの確立

2013/2/9

今回のぴっぴの防災講座の**目標**

- 防災プレ教育**の可能性に挑む

- 汎用性のある**グッズ**作り



2013/2/9

新しい防災プログラムの工夫点



■防災クイズ・紙芝居(他事業で作成)の活用

- 参加者には、防災への関心の温度差があるが、感じさせないようにする。
- 講座中、子どもの気持ちを引き付けることは、親の集中力を高めることになる。

■「家族防災カード」という課題

- その場限りの学習で終わるのではなく、家庭で定期的・継続的に行うことが大切。



2013/2/9

できました！ その1

■防災クイズ

The collage shows three overlapping cards:

- Top Card (Quiz Title Page):** Features the URL <http://www.hamamatsu-pippi.net>, the text "ぼうさいぴっぴ", "親子防災クイズ", and the NPO name "NPO法人はままつ子育てネットワークぴっぴ". It includes a cartoon baby character and a logo for "防災教育 ぴっぴネットワーク".
- Middle Card (Question):** Contains the text "〇×クイズ⑦" and "蓄品(水や食料)は ありあえず 「人数×1日分」 あればよい". It shows illustrations of water bottles.
- Bottom Card (Instruction):** Features a large "X" mark, the text "×3日分)、 意しておきましょう。 おくと安心です。 持ち出せる状況なら、 しましょう。", and illustrations of various disaster supplies like a bag, cans, and bottles.

2013/2/9

できました！ その2

■ 家族防災カード

この家族防災カードは、大切な家族の情報を集めておくためのカードです。家族の情報を集めておくことで、災害発生時に役に立ちます。

自分の情報

氏名: _____ 性別: _____
 住所: _____
 電話番号: _____

家族の情報

氏名	性別	年齢	備考
1			
2			
3			
4			
5			

困った時に頼りになる人

氏名	性別	電話番号	備考
1			
2			
3			
4			
5			

避難場所

名称	住所
1	
2	
3	
4	
5	

大人用 表(上)、裏(下)

電話が通じない際の緊急情報

- 災害用伝言ダイヤル(171)
 - ※通話料は通話料がかかります。
 - ※171に電話して、あとがけの音声メッセージを録音することができます。
 - ※録音したメッセージは、災害発生時に171に電話すると録音したメッセージが再生されます。
- 災害用伝言板の使い方
 - ※災害発生時にスマートフォン、パソコンから災害用伝言板の登録IDを入力してメッセージを送信することができます。
- 被災地以外の電話
 - ※被災地にいる人に連絡かけず、被災地以外にいる被災地からの人も被災地から連絡が受けたいという方法もあります。
- 公衆電話
 - ※被災地の公衆電話は、災害発生時に利用しやすい場合があります。
- 張り紙
 - ※災害発生時に、避難先や避難場所を知らせるために、避難先や避難場所を知らせるための張り紙を貼ります。

避難経路・危険箇所マップ

2013/2/9

こども防災カード

★わたしは…

名前: _____ 性別: _____ 年齢: _____
 住所: _____
 電話番号: _____

★わたしのほしやほし…

家族名(おんがひ)	つとめさま	まちのおんがひ
1		
2		

★むねばしょ

おと	どこに	まねおんがひ
1		
2		

★かがりつけのひょうしん

おなま	でんおんがひ	しよざい
1		
2		



子ども用 表(左)、裏(右)

できました！ その3

■ 子どもを守る防災教育チェックリスト

子どもを守る防災教育チェックリスト

● 乳幼児から始める防災学習のめやす (お子さんの発達に合わせて、無理なく教えましょう) ..

- タンコ虫のポーズ (くらつと来た時に、頭と心臓を守るポーズ) を教える。
- 避難する時は、防災リストを参照し、子ども自身が必要なものを自分で持ち出せる。
- タンコ虫のポーズ 上級編 (タンコ虫のポーズだけでなく、手近なもの (例えばクッションやバック) を頭で当てる、頭や上半身を守るポーズ) を教える。
- 家の周辺の危険物 (自動車やバイク、階段、ブロック壁など) を教える。
- 誰とくはくばつ時に自分の名前を言い、家族防災カードを出せるように教える。
- 避難する時は、「おがしも (おさない・かけない・しゃべらない・もどらない)」のルールを守る。
- 大きな流れの時は、自動車やバイクが通れない、路上が危ないことを教える。
- 避難場所や避難経路を教える。津波が危険な地域では、強い流れや低い流れの時は、高いところへ逃げることを教えるなど、自宅を中心に起こりうる災害を予測して、対策方法を教える。

※このチェックリストは、防災教育チャレンジプランの趣意により作成しました。

子どもを守る防災教育チェックリスト 使い方

- お子さんができるようになったら、☑チェックしましょう。
- このチェックリストは母子手帳や育児ノートに貼るなどして、時々見直しましょう。

防災知識・災害時の基本

- 自分の命は、自分で守る。
- 日頃から訓練していること、想定していたことが、いざという時に役立つ。
- そのために、日頃から防災についての関心を持つ。
- 家族で、定期的・継続的に防災会議や訓練をするなど、防災学習を心掛ける。
- いざという時は、地域でたすけあう。「おたがいさま」の気持ちが大切。
- 普段から、地域のひととの関わり合いを大切にす。

表(右)、裏(左)

母子手帳に貼り、時々見直すことで、防災の関心を薄れさせない！！

2013/2/9

できました！ その4

■子どもの命を守る学習記録

子どもの命を守る 学習記録		子どものなまえ
2歳のきみへ	3歳のきみへ	
4歳のきみへ	5歳のきみへ	
6歳のきみへ	7歳のきみへ	

※このシートは、防災教育チャレンジプランの取組で作成しました。

防災教育チャレンジプラン **子どもの命を守る 学習記録 使い方**

子どもと、家族防災会議を行った後に、どんなことができるようになったか、記録し、母子手帳や育児ノートに貼っておきましょう。

■乳幼児に教える防災学習のめやす（お子さんの発達に合わせて、無理なく教えましょう）

- 2歳児：ダンコ虫のポーズ
（くらくと来た時に、頭と心臓を守るポーズを教える）
- 3歳児：ダンコ虫のポーズ 上級編
（ダンコ虫のポーズだけでなく、身近なもの（例えばフッシャやバック）を頭当てる、頭や上半身を守るポーズを教える）
- 4歳児：家の周辺の危険物（自動販売機や電線、フロック塀など）を教える。
- 5歳児：親と離れた時に自分の名前を言ったり、家族防災カードを出せるように教える。
- 6歳児：大きな揺れの時は、自動車が制御できなくなり、路上が危ないことを教える。
- 7歳児：避難場所や避難経路を教える。津波が危険される地域では、強い揺れや長い揺れの後は、高いところに避けることを教えるなど、自宅を中心に起こりうる災害を予測して、対処方法を教える。

表(左)、裏(右)
母子手帳に貼り、時々見直して、防災の意識を薄れさせない！！

2013/2/9

できました！ その5

■学習計画

防災教育チャレンジプラン 家族防災会議 学習計画 (60分講座)

ねらい	災害はいつ起こるかわからない、家族が離れなければならない時に、災害が起こった場合、どのように安否確認するか、あらかじめ家族で話し合っておくことが重要であることに気づく。		
背景	東日本大震災では、災害が起こった直後、家族間の連絡が取れず、母親が一人で子どもを守り、夫は職場で対応するために、埋められない溝ができて離れした家庭もあった。一方、SNSやツイッターなどをうまく活用して連絡を取り合い、危機的状況を受け合っていたことにより、絆を強めた家庭もあった。災害は起こってみたいけどどのような状況が待ち受けているのかわからない部分があるが、命を守るために、あるいは、モノや心の被害を最小限に食い止めるためにも、あらかじめ家族で話し合っておく必要がある。		
参加者	子育てサークルの会員。(未就学児と保護者)		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・災害が起こる前に、家族でいざという時のためのルールを決めるなど、確認しておく必要があることに気づき、自分の家庭で決めておく必要がある項目を挙げる。 ・幼児でも守るだけの存在ではなく、子どもの発達に合わせて防災教育を行う必要があることに気づく。 ・各家庭で、災害時の行動や、家族内の決め事を、家族全員が周知しておき、定期的かつ継続的に確認し合う必要があることに気づき、各家庭で実行する。 		
方法	紙芝居の後は、グループに分かれ、グループ討論を中心にすすめる。		
	主な発問など	予想される参加者の反応	留意点
導入 05:50	1. 今日の講座注意事項と目的説明		1. 備えや防災に関する知識に差があるが、知っておくことがいざという時の冷静な判断力につながる。これらから、情報収集や興味関心を持ち続けることが必要。子どもは保育スペースと講座スペースを行き来するのはOK。
	2. 大地震が発生した時、自分の家やよくいる場所が起こりうる可能性のある災害はどのようなものか？地震以外の災害は大丈夫か？どのようになるか？想像して、あるいは経験から発表してもらう。	2. 津波、水害、竜巻、土砂崩れ、火災、電話やメールがつかない、ライフラインが使えない。	2. ハザードマップの危険性、安全な場所の人ほど、亡くなった。
講座のすすめ方 06:50	1. 紙芝居「その時、きみはどうする？」を読み聞かせする。		1. 防災直後は、情報が混乱する。デマに注意。紙芝居の中のデマ。
	2. 防災直後、親や子どものいる家庭での子どもの迎えはどうするか決めていくか？聞かせる。	1. 災害はいつ起こるかわからない、家族がバラバラの時はどうするか？ 2. 子どもの迎えは大きい順か、小さい順か？ 3. 避難場所の確認、連絡先・連絡方法、学校等の迎えについて	2. 携帯・メールは不通、メールは送信できても受信ができていないか確認できない場合あり。ひとりで行くべき年齢なら各自で逃げるが基本として、考えてもらう。兄弟の迎えが必要な場合はどちらを先に行くか？年齢・年齢の有無も考慮
	3. グループに分かれ、自分の家庭で話し合っておく必要がある項目は何かを考える。	4. 「17」の練習。備蓄品の確認、避難経路の確認、避難	3. 災害後仕事優先の夫に不満を感じ
	4. 家族防災会議は、家族での話し合いだけではなく、他にもやっておき		

2013/2/9

事業の実績



■制作物

- 防災〇×クイズの作成
- 家族防災カードの作成
- 「子どもの命を守る学習記録」と「子どもを守る防災教育チェックリスト」の作成

2013/2/9

事業の実績



■プログラムの実施

- 防災講座の開催(3回+他事業の防災講座1回)



2013/2/9

事業の成果



2013/2/9

今後の継続予定

- **防災クイズ**は、「受講対象年齢別」「カテゴリー別」などを作成して行く予定。
- これまでに行ってきた**プログラム**と**融合**させ、広めていく。
- 「**家族防災会議**」を家族で行った後、「**家族防災会議連絡会**」のようなものを定期的に行い、家族間でさらに情報交換と刺激し合っていく仕組みを作っていく予定。



今後も進化し続けます！

おしまい

2013/2/9

NPO法人はままつ子育てネットワークぴっぴ